

市民に愛される国立公園の豊かな森の再生を目指して  
**3/19(土)第3回「ベトナム ハノイ植樹」開催**  
3年間で約1,660人のボランティアの皆さまと15,000本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は3月19日（土）、ベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）ハノイ市西部のバ・ヴィ国立公園において第3回「ベトナム ハノイ植樹」を開催します。

バ・ヴィ国立公園は、自然あふれる憩いの場として市民の方々に親しまれています。その一方で生活伐採により森林は減少し、荒廃が進みました。

当財団は、ベトナム国家大学ハノイ校と協力し、同公園を多様な生物が生息する豊かな森として再生させるため、2014年から3年計画で植樹を行ってきました。

最終回となる本年は、ベトナムと日本のボランティア500人の皆さまとともに、地域に自生する5,000本の苗木を植えます。これによりベトナムにおける当財団の植樹は、2010年から2012年までのフエ省での植樹7万本と合わせて、合計8万5,000本となります。

当財団はベトナムにおける環境保全活動として、上記の植樹のほか、ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センターが実施している地域学生や住民への環境教育を支援しています。また、環境分野においてグローバルな視野で活躍する人材育成を目的として、当財団が主催している「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」に、ベトナム国家大学ハノイ校が2013年より参加しています。昨年は6カ国72名の学生がベトナムに集まり、同校が監修した7日間の環境教育プログラムを通じて生物多様性に関する意見を交換し学び合いました。また当財団は、環境負荷の小さい自然エネルギーについて学び、環境への理解を深めていただくきっかけとなることを願い、2014年、同国の中学校10校へ太陽光発電システムを寄贈しています。

当財団はこれからも、いのちあふれる美しい自然を未来の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時：2016年3月19日（土） 9：30～12：00

場 所：ベトナム社会主義共和国 ハノイ市西部 バ・ヴィ国立公園  
(Van Hoa commune, Ba Vi district, Hanoi)

参加人数：500人（日本のボランティア80人、ベトナムのボランティア420人）

植樹本数：5,000本

樹 種：ショウナンボク、アオギリ、コナラなど

植樹面積：15ha

主 催：バ・ヴィ国立公園

ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター  
公益財団法人イオン環境財団

後 援：日本大使館

ベトナム社会主義共和国 農業・農村開発省  
ベトナム国家大学ハノイ校

協 力：イオンベトナム株式会社

イオンモールベトナム株式会社

主な出席者：ベトナム国家大学ハノイ校 副学長

（予定） 在ベトナム日本国大使館  
公益財団法人イオン環境財団  
イオン株式会社

次席公使

理事長

ベトナム代表

グエン・ホアン・ハイ 様

柳 淳 様

岡田 卓也

尾山 長久

以上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹などのさまざまな活動を継続しています。

多くの皆さまに支えられ、2015年12月に設立25周年を迎えました。

▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

### ◆これまでの「ベトナム ハノイ」植樹について

本植樹は、当財団が実践、科学、制作、啓発分野において生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する個人を顕彰する「生物多様性みどり賞」を2012年に受賞されたベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長 ボ・クイ氏にご尽力をいただき始まりました。

#### 【第1回 2014年】

600人で5,000本を植樹



#### 【第2回 2015年】

560人で5,000本を植樹



### ◆生物多様性への取り組み

#### 〈生物多様性アワード〉

国連が定めた「国際生物多様性年」の2010年に、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋において開催されました。当財団はこれを機に、生物多様性の保全と持続可能な利用の促進を目的として、2009年より「生物多様性日本アワード（国内賞）」を、2010年より生物多様性条約事務局と共催で「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞・国際賞）」を創設し、隔年で開催しています。

生物多様性に関して積極的な活動に取り組む国内の団体や、世界・地域レベルで顕著に貢献している個人を顕彰し、生物多様性についての関心を高めることを目的としています。

2012年に開催した第2回生物多様性みどり賞では、戦争で疲弊した国土の緑化を通じて他の開発途上国における自然環境保全・修復の手本を示し、破壊された自然の再生に取り組まれたベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長 ボ・クイ氏を顕彰しました。同氏の受賞をきっかけに、2013年からベトナム国家大学ハノイ校が「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」（※）に参加し、さらに「ベトナム ハノイ植樹」開催へとつながりました。

▶生物多様性オンラインマガジン「The MIDORI Press」<http://www.midoripress-aeon.net/>

#### （※）アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

環境分野においてグローバルな視野で活躍する人材育成を目的に、2012年より10年計画でASEPを開催しています。アジア各国の大学生が集まり、それぞれの国の自然環境や歴史、文化、価値観の違いを学びながら、生物多様性について意見を交換し学び合います。昨年は、カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名の学生がベトナムに集まり、「生物多様性と人」をテーマに自然との共生についてディスカッションを重ねました。この教育プログラムは、ベトナム国家大学ハノイ校監修、早稲田大学協力によるもので、世界遺産ハロン湾などでのフィールドワークや有識者からの講義、地域の方々へのインタビューなどを通して環境への理解を深めました。

## 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブの、ベトナムにおける環境・社会貢献活動について】

ベトナムにおいて、公益財団法人イオン環境財団による活動のほか、イオンのグループ主要企業各社より税引き前利益の1%を充当し、社会貢献活動を行っている公益財団法人イオンワンパーセントクラブが、さまざまな取り組みを行っています。

### ◆ティーンエイジ アンバサダー

1990年より実施している高校生の国際交流事業「ティーンエイジ アンバサダー」に、日本とベトナムの高校生が2007年、2014年の2回参加し、交流を深めました。小さな大使（アンバサダー）として、両国の政府、大使館への表敬訪問、授業体験やホームステイを通じて価値観の多様性を学び、相互理解を深めています。

### ◆学校建設支援事業

2000年より、お客さまや従業員から寄せられた募金にイオンがほぼ同額を拠出し、学校建設の支援をはじめ、学習に必要な教材の提供や教員の育成プログラムなどの支援を行っています。ベトナムでは、フエ省人民委員会の協力の下、2010年から2013年にかけて30校の小学校建設を支援しました。

### ◆イオン スカラシップ

2011年、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学と「人材の採用」「小売の発展をテーマとした共同研究」「インターンシップの受け入れ」などの取り組みを含めたパートナーシップを締結しました。また、同年よりイオンの奨学金制度「イオン スカラシップ」をスタートし、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、ホーチミン市教育大学、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学、ハノイ貿易大学の学生のべ510人に奨学金を付与しています。

### ◆アジア・ユースリーダーズ

2010年、2011年、2014年に「アジア・ユースリーダーズ」をハノイ及びホーチミン市にて開催しました。次代を担う日本と海外の学生が一堂に会し、開催地の環境や社会問題をテーマにディスカッションを行い、問題の改善に向けて、高校生は市民活動を、大学生は政策を現地の政府に提案しています。また、多国間での議論を交わすことで、価値観の多様性についての理解を深めています。